

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:猪又 健太郎 所属:大分県立宇佐支援学校 記録日:2017年2月11日

キーワード:スケジュール入力・確認、コミュニケーション

## 【対象児の情報】

- ・学年 小学部5年生
- ・障害名 知的障がい 広汎性発達障がい
- ・障害と困難の内容

### スケジュールに関わる困難の内容……①

- ・自分で学習予定をチェックして過ごしていても、思い込みで過ごしていることもあるようで、間違っていたり変更があったりすると不安定になることがある。黒板のスケジュールを見ただけでは、正しい情報を理解するのが難しい面も見られる。
- ・下校方法で、「今日はスクールバスで帰ります」と伝えていても、保護者の迎えと思い込んでいるときがあり、そのようなときは、周囲の人に当たることが多い。

### コミュニケーションに関わる困難の内容……②

- ・自分の頭の中でイメージしていることを独り言で言葉に出すことが多く、要求など自分から周囲に発信することが少ない。
- ・困った事態が起きると「お～い、〇〇せんせ～」と言って、教師を呼び、単語や指さして困っていることを伝えることが多い。伝えたいことが上手く伝わらず児童があきらめて笑顔を見せて終わることがある。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい(変更あり)

- ①1日のスケジュールや1週間の予定を教師と一緒に整理、確認し、見通しを持って生活する。(5月～10月上旬)  
自分でこれからの活動のスケジュールを決め、順序を考える。(10月中旬～1月)
- ②教師に自分から関わり、写真などを手がかりにやりとりをしたり、要求を伝えたりすることができる。(5月～7月)  
教師に自分から関わり、写真などを手がかりにし、要求を伝えることができる。(9月～10月上旬)  
教師に自分からかわり、iPadや言葉で、要求を伝えることができる。(10月中旬～1月)

- ・実施期間

2016年5月～2017年2月上旬

- ・実施者

猪又 健太郎

- ・実施者と対象児の関係

担任教師と児童

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

#### ①に関わる状況(スケジュール)

- ・自分で学習予定をチェックして過ごしていても、間違っていたり変更があったりすると不安定になることがある。正しい情報を理解するのが難しい面も見られる。
- ・現在は朝の会などで、その日の時間割(シンボルとひらがながあるもの)を確認し、それを手元の連絡帳に書き写すようにしている。
- ・下校方法で、「今日はスクールバスで帰ります」と伝えていても、保護者の迎えと思いついていたり、そのようなときは、周囲の人に体当たりしたり、教室から飛び出したりすることが多い。

#### ②に関わる状況(コミュニケーション)

- ・自分の頭の中でイメージしていることを独り言で言葉に出すことが多く、要求などを自分から周囲に発信することが少ない。
- ・「こちょこちょ」や「なかにわ」など、単語で要求を伝える。
- ・困った事態が起きると「お～い、○○せんせ～」と言って、教師を呼び、単語や指さして自分が何に困っているのかということを伝えようとする人が多い。

### ・活動の具体的内容

#### ①に関わる活動内容(スケジュール)

<指導の考え①>チェックリスト形式でスケジュールを提示したら、児童にとってわかりやすいのではないかと、また下校方法など個人的なことも自分用のiPadにならば表示でき、いつでもチェック・変更できると考え取り入れた。

○チェックリストアプリ『リマインダー』を用いたスケジュールの入力、確認。

(5月下旬～6月下旬)(図1)

- ・毎朝登校後、教師と一緒にその日の学習予定を見ながら、スケジュールをチェックリスト形式で作成した。
- ・6月中旬、入力の方法を覚えた。ひらがなキーボード入力と予測変換機能を使い、漢字も使いながら一日のスケジュールを変更できるようになった。
- ・チェックリストにチェックをしながら朝の会から帰りの会までの時間を過ごした。
- ・操作によっては、リストの順序が入れ替わってしまったり、スケジュールの変更で新たな項目を追加する方法を教師と探ったりしたが、児童一人の入力に繋げることが難しかった。(6月下旬)



図1

<指導の考え②>スケジュールの追加が難しく、操作を失敗してしまうことが多かったため操作性の良いアプリに変更した。


○メモアプリ『メモ』を用いたスケジュールの入力、確認。(7月上旬～8月)

- ・毎朝登校後、一人でその日の学習予定を見ながら、スケジュールをチェックリスト形式で作成した。(図2)
- ・宿泊学習の日程も出発前に、教師としおりを見ながら入力し、チェックをしながら活動した。(7月上旬)
- ・始めはチェックしながら行動していたが、次第に一つずつ確認しなくても、行動できるようになった。(7月中旬)
- ・教師と一緒に連絡帳で下校方法を確認し、スケジュールに入力するようになった。(7月下旬)



図2

・家庭に iPad を持ち帰り、保護者と一日のスケジュールの入力や確認をした。(夏休み中)  
 <指導の考え③>スケジュールの順番と内容は理解できるが、加えて時間の概念を獲得してほしいと思いアプリを変更する。

○『ドロップトーク HD』のスケジュール機能を使い、前日とスケジュールの違う箇所を打ち替えた。(9月～10月上旬)(図3)

- ・文字は自分で入力し、シンボルや時刻は教師と入力した。
- ・一日の活動の変わり目などで、スケジュールの時計を見て、時刻を確認した。



図 3

<指導の考え④>教師が提示したスケジュールではなく、自分で内容や順番を決めてほしいことからアプリを変更する。

○『たすくスケジュール HD』を用いた活動の選択と順序の決定。(10月上旬～1月)

- ・アプリ内の写真カードの中から、活動を選択し、それを並べ替える形でスケジュールを作成した。
- ・朝の準備、帰りの準備、個別の指導でスケジュールを自分で決め、その流れに沿って活動するようにした。



図 4

## ②に関わる活動内容(コミュニケーション)

<指導の考え①>iPad の操作や一人で校内を移動することを目的にした。

○特別教室など場所の写真を撮った。(5月～6月中旬)



- ・特別教室など、学校の場所の中から一つ選び、『カメラ』アプリを使って写真を撮った。
- ・撮った場所を『ロイロノート』を使い、写真カードにした。(図4)



図 5

<指導の考え②>場所から人へ、写真を撮る対象を広げ、コミュニケーションのきっかけにしたいと考えアプリを変更した。

○教師の写真を撮る。(6月中旬～7月)(図5)

- ・教室内にいる教師の中から一人選び、『カメラ』アプリを使って写真を撮った。
- ・プレゼンテーションアプリ『パワーポイント』で示したモデルを見ながら、教師に「写真を撮ってもいいですか?」を聞き、写真を撮った。(教師の返答は「いいですよ」のみ)
- ・撮った画像を『ロイロノート』を使い、写真カードにした。

<指導の考え③>やりとりのパターンを増やし、やりとりの方法を獲得することや要求につながると良いと考えた。

○教師にしたい活動を伝える。(9月～10月上旬)

- ・教師と一緒に好きな遊びに関する物を写真に撮り、『ロイロノート』を使い写真カードにした。
- ・写真カードの中から、したい活動を選び、『パワーポイント』で示したモデルを見ながらやりとりをし、教室内にいる教師に「○○しても、良いですか?」を尋ねた。(図6)



図 6

<指導の考え④>よりシンプルにし、児童が「簡単に使える」「使って良かった」と思える手段に変更。

○文字や画像で教師にしたい活動を伝える。(10月中旬～1月)

- ・写真カードの中からしたい活動を選び、「しても良いですか」や「してください」と、教師に要求するようにした。
- ・要求するときに、なんと云えば良いのか思い浮かばない様子の時は、『音が出るおえかき



図 7

for iPad』🌈 に教師と文章を作って、読み上げる形で要求するようにした。(図7)

・教師が少し待ち、自分の言葉で要求が言えた場合は、大いに誉め、すぐに要求を受け入れるようにした。

#### ・対象児の事後の変化

##### ①に関わる事後の変化(スケジュール)

- ・ひらがな入力機能と予測変換機能を使い、1日のスケジュールを自分で入力できるようになった。
- ・始めは、スケジュールをチェックしながら、過ごしていたが、入力するだけで1日の流れが分かるようになった。
- ・したくない活動があるときは、スケジュールの中から自分で消すようになった。
- ・活動をどういう順番で行い、最後に何を楽しみにするのか組み立てができるようになった。

##### ②に関わる事後の変化(コミュニケーション)

- ・一人で iPad を操作し、いろいろな場所の写真を撮ることができるようになった。
- ・プレゼンを見ながら、決まったパターンのやりとりをすることができるようになった。
- ・プレゼンを見ながら様々な先生にしたいことを伝えることができた。
- ・教師と一緒に文字で書いたり、自分で書いたものを読んだりする形で、したいことを伝えることができた。

#### 【報告者の気づきとエビデンス】

##### ・主観的気づき

##### ①スケジュールに関わる気づき

- ・毎日スケジュールを入力することで、スケジュールと生活のつながりが理解でき、見通しを持ち生活できるようになったのではないかと。その結果、iPad 以外の黒板などに提示してあるスケジュールの理解もできるようになったのではないかと。
- ・スケジュールを入力確認することで、自分から行動を起こすことができた。
- ・下校手段を確認することで、1日を落ち着いて過ごせたのではないかと。
- ・スケジュールを理解できてきて、「したくない」けど、「しないといけない」ということを受容について、葛藤があったのではないかと。

##### ②コミュニケーションに関わる気づき

- ・「困ったときは、iPad を見ると、何かヒントがある！」と感じているのではないかと。
- ・「様々な先生が、ぼくの話聞いてくれる！」と気づいたのではないかと。

##### ・エビデンス(具体的数値など)

##### ①に関わるエビデンス(スケジュール)

○スケジュールを気にするようになり、入力したスケジュールを気にしたり、入力の元となった学習予定表を見たりしながら生活したりするようになった。その中で、自分から教室移動をしたり、トイレに行ったりするようになった。また、不安定になることも減り、とても落ち着いて過ごせるようになった。特に、怒って床に寝転ぶ様子は7月以降減り、1月時点では見られない。(図8)

○宿泊学習において、『メモ』でスケジュールの順序は確認していたが、時刻が入っておらず、深夜1時頃に目を覚まし、「起床です。電気をつけてください」と言うことがあった。(7月上旬)

○家庭において、保護者とスケジュールを確認しながら過ごすことで、自ら次の行動に移るなど、見通しを持って過ごす様子が見られた。徐々に入力するだけでスケジュールを把握できるようになった。また、あまり好きではない予定を自分で削除する様子が見られるようになった。(夏休み中)

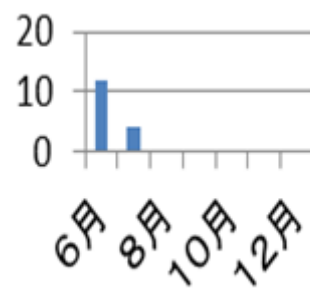


図8



○朝教室に入ると、自分から担任に「バスで帰ります」などと伝え、下校方法を確認するようになった。そのような場合は、担任と連絡帳を見ながら、下校方法を確認している。(7月中旬以降)(図9)当日の朝の下校方法の変更も、自分から担任に「おじいちゃんお迎えです」と報告ができるようになった。(9月上旬)



図 9

○下校手段が急遽変更されても、「帰りの方法が変わりました。」「スクールバスです。」と伝えても受け入れることができるようになった。(11月下旬)

○家や学校でカレンダーや週予定を自分から指さしながら「バス遠足」や「お楽しみ会」などと言い、行事を楽しみにしている様子が見られるようになった。(9月、12月)

○下校方法で、保護者はデイサービスと連絡帳に書いていても、「お母さんお迎えです。」ということがあった。おそらく「お母さんと帰りたい」という本児からの要求であろうと考え、いったん「お母さんお迎えが良いんだね」といったん受け入れた上で、もう一度、連絡帳と一緒に確認することで、納得する様子が見られた。(1月)

受け入れ頻度  
・6月 4回中 1回  
(床に寝転がる2、教室から飛び出そうとする)  
・11月 5回中 5回

図 10

○朝の準備、帰りの準備において、自分で、順番を決めることで、自分から荷物が終わったら着替えというように、一連の流れで準備をすることができるようになった。時間も20～25分かかっていたものが、15分程度で終わるようになった。(1月)

## ②に関わるエビデンス(コミュニケーション)

○iPadのプレゼンテーションアプリ『パワーポイント』に表示された文字を元に、様々な教師とやりとりすることができるようになった。決まった場面で、決まった人に、決まった文言でという限られたやりとりではあるが、本児が何をするのか分からなくなったときに、iPadを見て、表示されている文字を相手に言う場面が見られるようになった。(9月)



図 11

○「〇〇先生にしても良いか聞いておいで。」といわれたときに、iPadを開き、以前学習で使ったプレゼンテーションアプリやスケッチアプリを立ち上げ、ヒントにしている様子が見られた。(12月)(図11)

○学校生活の場面で、『伝えよう』という様子が見られ、担任に以前の「おーい、〇〇せんせい」と呼びかけるだけでなく、様々な教師(同じクラス)に「〇〇せんせい」と呼びかける場面が増えた。あいさつをしたり、「こちょこちょしてください」などの言葉を使った要求も見られるようになった。(1月)



図 12

○以前は「こちょこちょ」「中庭」など、単語で要求を伝えていたが、「〇〇しても良いですか?」や「〇〇してください」など、文章で要求できる場面が見られるようになった。(1月)

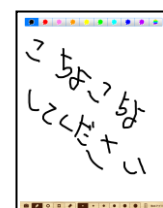


図 13


○家庭でも「〇〇しても、良いですか?」という形での、要求がよく見られるようになった。という母親からのコメントがあった(2月)

## ・その他エピソード(画像などを含めて)

○スケジュール入力をする際に、予測変換機能を使うようにしていた。予測変換機能を使う中で、読める漢字が増えたことに気づいた。4月、読めるものは、曜日や自分の名前などといった身近な物か、怪獣図鑑に出てくる興味のあるものが中心だった。9月には、小学校1年生程度の漢字は8割程度読むことができるようになった。また、水曜日や水遊びなどといった同じ水でも「すい」や「みず」という音訓の読み分けができるようになってきている。

・二日を「ふつか」、三日を「みっか」と読むことができるようになった。

・「林」のように、本児にとって生活の中で目にすることの少ない漢字は、間違えることが多い。

○6月上旬に『漢字の読み1年生漢字』に取り組んだときは正解率が5問中1、2問であったが、9月中旬に取り組んだところ、正解率が8割に達していた。

	6月上旬	9月中旬	1月中旬
かず	2/5	4/5	4/5
ようび	2/5	5/5	5/5
ようす	1/5	3/5	5/5
しぜん	1/5	3/5	4/5
にんげん	2/5	5/5	5/5
平均	1、6/5	4/5	4、6/5

※このアプリは、漢字の学習では使用しておらず、データを取るときにのみ使用している。

- ・漢字の入った文章にも興味が出てきていて、図鑑や絵本などで自分の分からない漢字が出てくると、読み方を教師に尋ねる様子が見られるようになった。
- ・夏休みの楽しかったことの発表で母親が漢字も用いた文章を用意してくれたが文中の、『昨年』以外は漢字もひらがなも読むことができた。
- ・漢字の学習にも意欲的に取り組み、読めるものだけでなく、おおよその形を捉えて書けるものも増えている。

